金剛桜

この桜は、1881 年にここに移築された時には、すでに樹齢 400 年を超えていた。当時の輪王寺の住職であった彦坂諶厚（1833～1897）が、この木を近くの場所から移動させて三仏堂の前に建てた。三仏堂や本堂は、1868 年に始まった政府による神仏分離に伴い、最近ここに移された。その大きさと風格から、住職がこの木を選んだ。

諶厚らはこのままではこの木が生きていけないのではないかと心配し、毎朝、木の前でお経を唱えていた。やがて木は成長を始め、根元から新たに 4 本の幹が生えてきた。

　この木は、金剛の死後の法名「金剛心院」にちなんで「金剛桜」と名付けられた。金剛とは、日本の仏教用語で「ダイヤモンド」を意味し、不屈の精神や頑固さを表している。

　金剛桜は、観賞用の桜としては珍しい雑種と考えられている。4 月下旬から 5 月上旬に白い大輪の花を咲かせる。天然記念物に指定されている。